

4年生:
入力者:95.7%(110名/115名中)

項目	技術の種類	本学卒業時の到達度	I	II	III	IV	合計人数	17回生4年次達成割合	17回生3年次達成割合	4年次-3年次	
1	環境調整技術	1 患者にとって快適な病床環境をつくることができる	I	90	20	0	0	110	81.8%	55.3%	26.5%
		2 基本的なベッドメイキングができる	I	97	13	0	0	110	88.2%	69.4%	18.8%
		3 臥床患者のリネン交換ができる	II	64	39	4	3	110	93.6%	75.3%	18.3%
2	食事の援助技術	1 患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I	68	32	9	1	110	61.8%	18.8%	43.0%
		2 患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I	82	27	1	0	110	74.5%	50.6%	24.0%
		3 経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I	24	35	42	9	110	21.8%	10.6%	11.2%
		4 患者の栄養状態をアセスメントできる	II	78	31	0	1	110	99.1%	100.0%	-0.9%
		5 患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II	19	56	25	9	109	68.8%	48.8%	20.0%
		6 患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる	II	25	56	12	17	110	73.6%	49.4%	24.2%
		7 患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II	6	8	72	23	109	12.8%	9.4%	3.4%
		8 モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III	17	34	55	4	110	96.4%	78.6%	17.8%
		9 電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV	81	24	2	3	110	100.0%	100.0%	0.0%
		10 患者の食生活上の改善点が見える	IV	46	49	7	5	107	100.0%	100.0%	0.0%
3	排泄援助技術	1 自然な排便を促すための援助ができる	I	35	63	8	4	110	31.8%	20.0%	11.8%
		2 自然な排尿を促すための援助ができる	I	28	65	6	11	110	25.5%	12.9%	12.5%
		3 患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	I	23	57	15	14	109	21.1%	7.1%	14.0%
		4 膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I	41	57	11	1	110	37.3%	23.5%	13.7%
		5 ポータルトイレでの患者の排泄援助ができる	II	10	38	31	31	110	43.6%	24.7%	18.9%
		6 患者のおむつ交換ができる	II	67	42	1	0	110	99.1%	85.9%	13.2%
		7 失禁をしている患者のケアができる	II	33	43	11	23	110	69.1%	54.1%	15.0%
		8 膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	II	27	66	15	2	110	84.5%	47.1%	37.5%
		9 モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III	15	37	42	16	110	85.5%	77.6%	7.8%
		10 モデル人形にグリセリン浣腸ができる	III	6	11	22	71	110	35.5%	23.5%	11.9%
		11 失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	IV	18	55	17	20	110	100.0%	100.0%	0.0%
		12 基本的な摘便の方法、実施以上の留意点が見える	IV	18	17	46	28	109	100.0%	100.0%	0.0%
		13 ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点が見える	IV	18	33	24	34	109	100.0%	100.0%	0.0%
4	活動・休息援助技術	1 患者を車椅子で移送できる	I	71	33	5	0	109	65.1%	43.5%	21.6%
		2 患者の歩行・移動介助ができる	I	57	47	5	1	110	51.8%	31.8%	20.1%
		3 廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I	74	34	1	1	110	67.3%	38.8%	28.4%
		4 入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I	68	37	1	3	109	62.4%	30.6%	31.8%
		5 患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I	64	37	1	8	110	58.2%	34.1%	24.1%
		6 臥床患者の体位変換ができる	II	56	54	0	0	110	100.0%	83.5%	16.5%
		7 患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	II	26	71	11	1	109	89.0%	57.6%	31.3%
		8 廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II	29	57	13	11	110	78.2%	58.8%	19.4%
		9 目的に応じた安静保持の援助ができる	II	38	61	6	4	109	90.8%	65.9%	24.9%
		10 体動制限による苦痛を緩和できる	II	19	65	13	12	109	77.1%	57.6%	19.4%
		11 患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	II	9	55	32	14	110	58.2%	31.8%	26.4%
		12 患者のストレッチャー移送ができる	II	15	48	30	17	110	57.3%	32.9%	24.3%
		13 関節可動域訓練ができる	II	7	21	53	28	109	25.7%	16.5%	9.2%
		14 廃用症候群のための呼吸機能を高める援助が見える	IV	11	28	37	34	110	100.0%	100.0%	0.0%
5	清潔・衣生活援助技術	1 入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I	42	64	3	1	110	38.2%	29.4%	8.8%
		2 患者の状態に合わせて足浴・手浴ができる	I	52	45	9	3	109	47.7%	34.5%	13.2%
		3 清拭援助を通して、患者の観察ができる	I	73	36	0	0	109	67.0%	45.9%	21.1%
		4 洗髪援助を通して、患者の観察ができる	I	58	39	10	2	109	53.2%	25.9%	27.3%
		5 口腔ケアを通して、患者の観察ができる	I	51	40	18	1	110	46.4%	23.5%	22.8%
		6 患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I	73	37	0	0	110	66.4%	42.4%	24.0%
		7 持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I	53	55	1	1	110	48.2%	30.6%	17.6%
		8 入浴の介助ができる	II	25	75	8	2	110	90.9%	72.9%	18.0%
		9 陰部の清潔保持の援助ができる	II	53	56	1	0	110	99.1%	92.9%	6.2%
		10 臥床患者の清拭ができる	II	52	51	5	1	109	94.5%	87.1%	7.4%
		11 臥床患者の洗髪ができる	II	23	28	51	7	109	46.8%	36.5%	10.3%
		12 意識障害のない患者の口腔ケアができる	II	22	30	19	39	110	47.3%	28.2%	19.0%
		13 患者の病態・機能に合わせて口腔ケアを計画できる	II	42	40	12	15	109	75.2%	41.2%	34.1%
		14 持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる	II	24	69	16	0	109	85.3%	74.1%	11.2%
		15 沐浴が実施できる	II	40	54	15	1	110	85.5%	36.9%	48.5%
6	呼吸・循環を整える技術	1 酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I	23	54	24	9	110	20.9%	14.3%	6.6%
		2 患者の状態に合わせて温電法・冷電法が実施できる	I	31	40	24	15	110	28.2%	11.8%	16.4%
		3 患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I	45	51	6	8	110	40.9%	29.8%	11.1%
		4 末梢循環を促進するための部分浴・電法・マッサージができる	I	36	45	19	10	110	32.7%	21.2%	11.6%
		5 酸素吸入療法が実施できる	II	4	14	62	30	110	16.4%	4.7%	11.7%
		6 気道内加湿ができる	II	3	14	51	42	110	15.5%	3.5%	11.9%
		7 モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	III	18	31	59	2	110	98.2%	91.8%	6.4%
		8 モデル人形で、気管内吸引ができる	III	17	32	56	5	110	95.5%	88.2%	7.3%
		9 モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	III	19	29	43	19	110	82.7%	74.1%	8.6%
		10 酸素ポンプの操作ができる	III	7	30	51	22	110	80.0%	54.8%	25.2%
		11 気管内吸引時の観察点が見える	IV	26	36	40	7	109	100.0%	100.0%	0.0%
		12 酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性が見える	IV	33	29	27	21	110	100.0%	100.0%	0.0%
		13 人工呼吸器装着中の患者の観察点が見える	IV	18	42	32	18	110	100.0%	100.0%	0.0%
		14 低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点が見える	IV	6	23	28	52	109	100.0%	100.0%	0.0%
		15 循環機能のアセスメントの視点が見える	IV	62	42	2	3	109	100.0%	100.0%	0.0%
7	創傷管理技術	1 患者の褥創発生の危険をアセスメントできる	I	74	35	1	0	110	67.3%	41.2%	26.1%
		2 褥創予防のためのケアが計画できる	II	50	47	8	4	109	89.0%	72.9%	16.0%
		3 褥創予防のためのケアが実施できる	II	37	56	10	6	109	85.3%	69.4%	15.9%
		4 患者の褥創の観察ができる	II	47	47	12	4	110	85.5%	65.9%	19.6%
		5 学生間で基本的な包帯法が実施できる	III	26	25	46	13	110	88.2%	82.4%	5.8%
		6 創傷処置のための無菌操作ができる(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	III	12	17	67	14	110	87.3%	74.1%	13.2%
		7 創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴が見える	IV	19	27	24	40	110	100.0%	100.0%	0.0%

項目	技術の種類	本学卒業時の到達度	I	II	III	IV	合計人数	17回生	17回生	4年次-
								4年次達成割合	3年次達成割合	3年次
8 与薬の技術	1 経口薬(バツカル錠・内服薬・舌下錠)の服薬後の観察ができる	II	20	40	17	33	110	54.5%	37.6%	16.9%
	2 経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	II	21	46	23	19	109	61.5%	41.7%	19.8%
	3 直腸内与薬の投与前後の観察ができる	II	11	20	28	49	108	28.7%	14.3%	14.4%
	4 点滴静脈内注射をうけている患者の観察点ができる	II	42	51	11	6	110	84.5%	76.5%	8.1%
	5 モデル人形に直腸内与薬が実施できる	III	3	6	16	85	110	22.7%	12.9%	9.8%
	6 点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	III	13	35	47	14	109	87.2%	72.9%	14.2%
	7 モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	III	10	29	56	14	109	87.2%	84.7%	2.5%
	8 モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	III	11	28	61	9	109	91.7%	88.1%	3.6%
	9 モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	III	7	32	58	13	110	88.2%	83.5%	4.7%
	10 輸液ポンプの基本的な操作ができる	III	10	25	70	4	109	96.3%	90.6%	5.7%
	11 経口薬の種類と服用方法がわかる	IV	25	37	22	25	109	100.0%	100.0%	0.0%
	12 経皮・外用薬の与薬方法がわかる	IV	27	32	20	30	109	100.0%	100.0%	0.0%
	13 中心静脈内栄養をうけている患者の観察点ができる	IV	24	31	29	26	110	100.0%	100.0%	0.0%
	14 皮内注射後の観察点ができる	IV	17	28	31	34	110	100.0%	100.0%	0.0%
	15 皮下注射後の観察点ができる	IV	17	27	34	29	107	100.0%	100.0%	0.0%
	16 筋肉内注射後の観察点ができる	IV	19	22	39	29	109	100.0%	100.0%	0.0%
	17 静脈内注射の実施方法がわかる	IV	18	22	50	20	110	100.0%	100.0%	0.0%
	18 薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる	IV	22	29	33	25	109	100.0%	100.0%	0.0%
	19 静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	IV	20	35	29	26	110	100.0%	100.0%	0.0%
	20 抗生物質を投与されている患者の観察点ができる	IV	19	43	17	31	110	100.0%	100.0%	0.0%
	21 インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	IV	21	33	35	20	109	100.0%	100.0%	0.0%
	22 インシュリン製剤を投与されている患者の観察点ができる	IV	22	45	27	16	110	100.0%	100.0%	0.0%
	23 麻薬を投与されている患者の観察点ができる	IV	14	34	25	37	110	100.0%	100.0%	0.0%
	24 薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる	IV	21	38	28	23	110	100.0%	100.0%	0.0%
	25 輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点ができる	IV	13	32	21	44	110	100.0%	100.0%	0.0%
9 救命救急処置技術	1 緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I	20	17	38	35	110	18.2%	15.3%	2.9%
	2 患者の意識状態を観察できる	II	50	36	16	7	109	78.9%	70.2%	8.7%
	3 モデル人形で気道確保が正しくできる	III	34	20	50	6	110	94.5%	96.4%	-1.9%
	4 モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	III	20	22	50	17	109	84.4%	82.1%	2.3%
	5 モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	III	27	25	50	8	110	92.7%	90.6%	2.1%
	6 除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	III	32	24	53	1	110	99.1%	96.5%	2.6%
	7 意識レベルの把握方法がわかる	IV	51	24	27	8	110	100.0%	100.0%	0.0%
	8 止血法の原理がわかる	IV	32	25	36	16	109	100.0%	100.0%	0.0%
10 症状・生体機能管理技術	1 バイタルサインが正確に測定できる	I	100	9	1	0	110	90.9%	77.6%	13.3%
	2 正確に身体計測ができる	I	56	16	25	13	110	50.9%	29.8%	21.1%
	3 患者の一般状態の変化に気づくことができる	I	62	46	2	0	110	56.4%	36.5%	19.9%
	4 系統的な症状の観察ができる	II	52	53	4	1	110	95.5%	87.1%	8.4%
	5 バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる	II	73	36	1	0	110	99.1%	96.5%	2.6%
	6 目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	II	9	14	33	54	110	20.9%	7.1%	13.9%
	7 簡易血糖測定ができる	II	19	20	64	6	109	35.8%	22.4%	13.4%
	8 正確な検査が行なえるための患者の準備ができる	II	15	50	33	12	110	59.1%	41.2%	17.9%
	9 検査の介助ができる	II	10	39	41	20	110	44.5%	27.4%	17.2%
	10 検査後の安静保持の援助ができる	II	14	42	37	17	110	50.9%	28.2%	22.7%
	11 検査前、中、後の観察ができる	II	14	52	27	16	109	60.6%	34.5%	26.0%
	12 モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	III	15	25	61	9	110	91.8%	84.7%	7.1%
	13 血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわかる	IV	13	25	35	36	109	100.0%	100.0%	0.0%
	14 身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる	IV	25	37	24	24	110	100.0%	100.0%	0.0%
11 感染予防技術	1 スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	I	103	6	0	0	109	94.5%	94.1%	0.4%
	2 必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の装着ができる	II	98	12	0	0	110	100.0%	98.8%	1.2%
	3 使用した器具の感染防止の取り扱いができる	II	84	18	5	3	110	92.7%	92.9%	-0.1%
	4 感染性廃棄物の取り扱いができる	II	96	10	2	1	109	97.2%	97.6%	-0.4%
	5 無菌操作が確実にできる	II	39	35	32	4	110	67.3%	63.1%	4.2%
	6 針刺し事故防止の対策が実施できる	II	49	14	39	8	110	57.3%	50.0%	7.3%
	7 針刺し事故防止後の感染防止の方法がわかる	IV	46	10	37	17	110	100.0%	100.0%	0.0%
12 安全管理の技術	1 インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I	48	9	13	40	110	43.6%	27.1%	16.6%
	2 災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる	I	21	9	14	66	110	19.1%	14.1%	5.0%
	3 患者を誤認しないための防止策を実施できる	I	68	22	15	5	110	61.8%	50.6%	11.2%
	4 患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	II	64	39	5	2	110	93.6%	88.2%	5.4%
	5 患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	II	56	47	4	3	110	93.6%	89.4%	4.2%
	6 放射線曝露の防止のための行動がとれる	II	25	33	23	29	110	52.7%	28.2%	24.5%
	7 誤薬防止の手順にそった与薬ができる	III	17	20	59	14	110	87.3%	75.3%	12.0%
	8 人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	IV	21	32	24	33	110	100.0%	100.0%	0.0%
13 安全確保の技術	1 患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	II	44	55	7	2	108	91.7%	81.2%	10.5%
	2 患者の安楽を促進するためのケアができる	II	48	55	4	2	109	94.5%	89.4%	5.1%
	3 患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる	II	47	58	4	1	110	95.5%	77.6%	17.8%
14 赤十字災害看護学における追加項目	1 心のケアができる	III	26	32	21	30	109	72.5%	57.8%	14.6%
	2 トリアージタッグの取り扱いができる	II	25	20	62	2	109	41.3%	36.9%	4.4%
	3 トリアージができる	II	21	24	60	4	109	41.3%	36.1%	5.1%
	4 担架による患者搬送ができる	II	21	23	63	1	108	40.7%	36.9%	3.8%
	5 三角巾による傷の手当ができる	II	15	29	65	0	109	40.4%	40.5%	-0.1%
	6 救助所の設営方法がわかる	IV	10	28	60	11	109	100.0%	100.0%	0.0%

10%以上の増加
10%以上の減少

50%未満